

実用新案公報

⑬公告 昭和49年(1974)10月5日

(全2頁)

1

⑭トランクに設けた走行具

⑮実 願 昭44—7697

⑯出 願 昭44(1969)1月28日

⑰考 案 者 出願人に同じ

⑱出 願 人 平野誠

秋田市大町1の3の41

⑲代 理 人 弁理士 藤盛道夫

図面の簡単な説明

第1図は正面図、第2図は側断面図、第3図は第2図を矢印の方向からみた底面図で、いずれも要部を示す。

考案の詳細な説明

この考案は車輪を設けた車輪軸装脚をトランクから回転移動して出沒できるようにしたものである。

トランクの蓋1とトランク本体の底盤2間の側面の隅角部3にはその側壁の両縁部に90°に折曲した一体の凹部4, 4'を凹設し、両縁部のその凹部に於て一方の凹部から他方の凹部4'にかけて90°に屈曲させた車輪軸装脚5の一端部を第3図で一側の脚5について示すように、凹部4の開放側縁に向つて凹部4の底部に45°の角度に設けた蝶番6に固着し(そのためには脚5の一端部の端縁5'を45°に斜辺する)、他端部の裏面に車輪7を軸装し、凹部4, 4'には蓋8を嵌め込み取り外すし自在にし、上記蝶番6に近接して止片9を凹部4の底部に回転自在に取り着けて同止片9で脚5の一端部を押え止めるようにしてこの考案が構成されている。

上記構成により、蓋8を取り外すと、蝶番6に蝶着された脚5は自重によつて端縁5'に於て凹部4の開放側縁10, 10'へ裏返えるように180°回転して突き出るようになり、車輪7を設けた脚5の他端部は脚5の一端部に対して90°折曲しているから両側の車輪7は蓋1、底盤2面と平行状態に垂れ下がることとなる。すなわち

2

車輪7についてみれば、顔面に向けた手のひらを下げて太ももの外側方へ当てるように回転するのである。しかも脚5は蝶番6に蝶着した部分から前部の折曲していない部分11が凹部4の底面に接するからトランクをそのまま押しまたは引くと、トランクを支えて車輪7で走行できる。なお止片9は脚5を凹部4, 4'へ収めたときに倒れ出ないようにするもので、蓋8は凹部4, 4'の正面ばかりでなく前記開放側縁10, 10'も同時に塞ぐ形状とすることもできる。また、トランクの蓋1には脚5が回転するよう凹部4, 4'と同様の凹部12を凹設するものとする。

上記のようにこの考案は、トランクの側面に於ける隅角部3を利用してその隅角部3内に同部の曲率に沿つて屈曲させた車輪軸装脚5を、その一端部を開放側縁10へ回転反転自在に蝶着しているから車輪7をトランクの幅のせまい側壁側から奥行きのある蓋1、底盤2の側へ、しかも蓋1、底盤2と平行に突出させることができるとともにトランクの長手の方向と車輪7とが平行するので混雑する旅行客の間を幅のせまいトランクの側壁幅で走行させる効果がある。

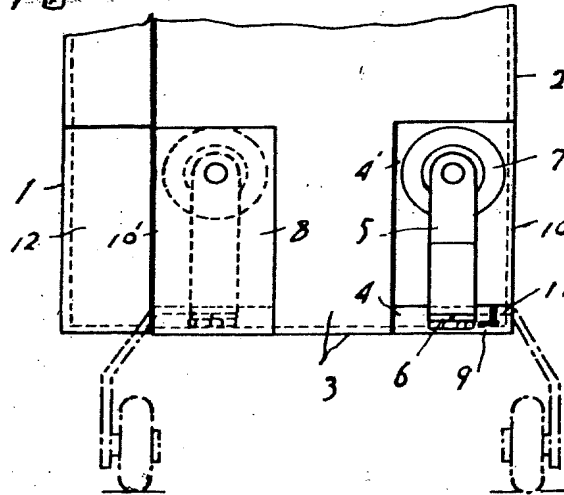
⑳実用新案登録請求の範囲

トランクの側壁面に於ける両縁の隅角部にそれぞれ隅角に沿つて一体の凹部4, 4'を凹設し、各凹部4, 4'のトランクの蓋1および底盤2側の面を開放側縁10, 10'とし、各凹部4, 4'に隅角部の曲率に沿つて屈曲した車輪装脚5を同脚5の一端部は、各凹部4, 4'の開放側縁10, 10'に向つて45°の角度にて凹部4の底面に固着した蝶番6に固着し、他端部に車輪7を軸装して車輪7をトランクの側壁面からトランクの蓋1または底盤2面側へ平行に回転反転できるようにしたる上、各凹部4, 4'に蓋8を着脱自在に設けたトランクに設けた走行具。

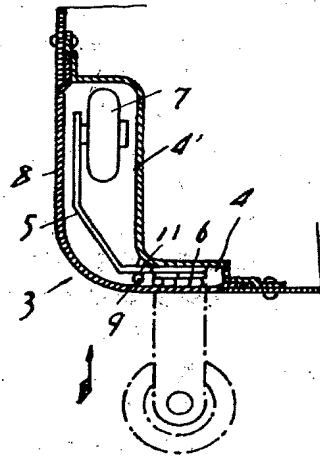
㉑引用文献

実 公 昭40—32146

第1図



第2図



第3図

